

人と人の

絆新聞

青山中学校 二年
小林 知紗

戦時中の人々の生活



2026/07/31

(実食したすいとん)

一食はすいとんだけ!!

戦時中、人々がよく食べていたという「すいとん」。今日は滋賀県平和記念館で実食したすいとんをご紹介します。
小麦の団子が入っていてもちもちしている。だし汁は給食で出て

きょうな控えめで優しい味。一見少なそうに見えても食べてみると意外とお腹が満たされるのはすいとんの特徴といえる。

しかし、当時のすいとんは汁に味がなく写真とは正反対に野菜もほぼ入ってなかったそう。もはやお湯と小麦粉のかたまりを食べているという状態。当時の人たちは食事に幸せを感じることが出来ていたのか不思議に思う。

なぜ小麦の団子かというとあの頃はお米がほとんど無かったから小麦で代用していた。と戦時食グループの方は語っていた。今回実食したのは塩味だったが醤油油味など様々な味にアレンジできるらしい。

来月はお月見用の団子が販売されるだろう。団子を使ってぜひ自宅の一食の一品にされるのはいいかたろうか。そして家族と戦時中の食事にについて話し合ってみてほしい。

現在と当時の子どもの違い

現在の小学生や中学生は

学校で学習したり、友達と遊んだり、スポーツに熱中したり様々な体験をして育っている。

だが、当時の子どもは学校に行っても畑で野ササを育てたり、大人になつたら兵隊になれるように木銃の訓練をしたりと現在の子どものと比べてまるで戦うことと逃げることしか知らない生き物。

他にも家族と離ればなれになつたりもしたそう。現在では考えもしない様子が戦時中では当たり前だったとのこと。

まとめ

戦時中の人々の

暮らしは辛く苦しいものだけ。が当時は我慢していたのだ。

戦時中の暮らし



(子供の時の話をしてくれた なかざわみつこさん(写真右)へ)

大変だった昔の生活

戦時食グループの
なかざわみつこさんに戦
争中の子供のくらしにつ
いて話を聞きました。
他の友達とは遊んでいる
人が多かったけれど、みつこ

平和の

白い鳥新聞

青山小学校 6年 伴 玲

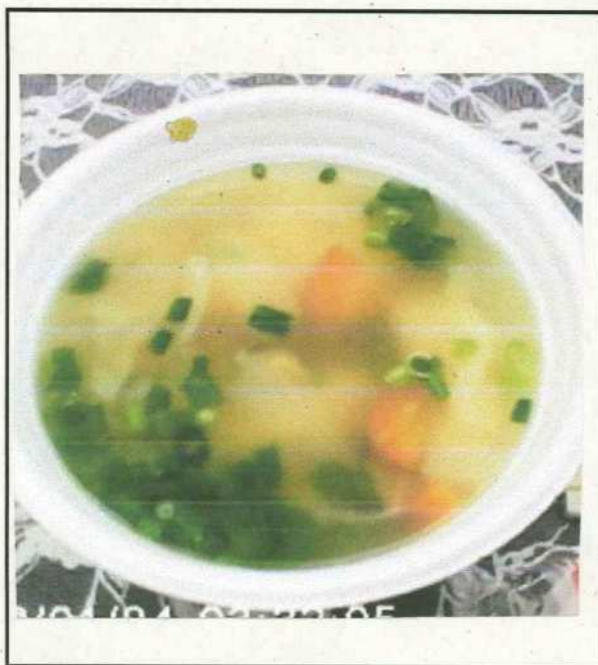
さんは家事を手伝
ていたそうです。また、
幼稚園での遊びは鉄
うやブランコではなく、
縄飛びや大なれ段飛び
をしていたらしいです。
戦時中は何もなくて苦
生活で種を分け合、畑
で野菜を作っていて、今
のように快適で安全には
出来なかったと話してく
れました。

戦争が終わってからは、
少しずつお店が出てきた
と言っていました。その時
は人数年れいで買える品
変れる配給制度があった
そうです。

みつこさんは子供時代は
「楽しかったこともある
けど大変だった」と語
てくれました。

米の代わりの「すいとん」

戦争中に米が十分になか
たため、代用食としてよく食
られていたという「すいとん」
を、静岡県平和祈念館でい
ただきました。中に入っている
小麦粉をたんごにしたものは、
もちもちしてとてもおいし
いです。でも昔はいい食料
品で、たので、あまりおいし
くありませんでした。



(いただいた「すいとん」へ)

感想

なかざわみつこさん
話を聞いて、戦争に
よって家族や親せき
平和なくくらしを失うことか
るということが強く心に残
りました。もう戦争をしてほ
しくないと思います。